

油断大敵！透析医療

泌尿器科医が知っておくべき危機管理からトラブル対処法まで

企画にあたって

泌尿器科悪性腫瘍や尿路結石症、排尿機能などの診療分野と同様に、透析医療に関しても各学会よりガイドラインが提案され、治療マニュアルが刊行されています。また、腎不全領域の外科的分野の側面から、バスキュラーアクセス（VA）作成や腹膜透析（PD）カテーテル留置に関して、全国的に術式の標準化がなされてきています。泌尿器科医が透析医療に関わるにあたっては、これらのガイドラインを咀嚼し、標準的治療や術式をいかに効率的に実践していくかが重要であります。

一方、通常は透析内科医・腎臓内科医が主体で対応しているような危機管理に関しても、泌尿器科医として知っておくべき知識があると考えます。実臨床においては、現在の新型コロナウイルスや例年のインフルエンザウイルスなどの流行性感染症対策、サルコペニア・フレイル管理、薬物治療、腎移植後透析再導入の時期決定、緊急時の血液透析・血漿交換療法などが挙げられます。

さらに、外科的分野でのトラブルシューティングや内科医よりコンサルトされるような症例など、透析医療の外科的分野を任される泌尿器科医として専門知識が求められ、避けては通れない状況に出くわすことがあります。具体的には、VA作成時のトラブル対処法、トラブルアクセスに対する治療戦略、PDカテーテル留置時のトラブル対処法などが挙げられます。

本特集では、ガイドラインや治療マニュアルからさらに踏み込んで、これらの問題や課題への対処法について、エキスパートの先生方の経験をもとに解説していただきました。透析医療に関わる泌尿器科医の勤務地は、バスキュラーアクセスセンター、透析専門施設、総合病院などそれぞれ異なり、関わり方もさまざまではありますが、本特集が多くの泌尿器科医にとって、より安全な透析医療を実践するための一助となれば幸いです。

大阪警察病院
泌尿器科

奥見 雅由